

第2回 サッカースタジアムについて意見を聴く会 議事録

1 日時

令和元年12月20日(金) 14時00分～15時40分

2 場所

JMSアステールプラザ2階 多目的スタジオ

3 出席者

(1) 委員

桂田隆行委員、原田宗彦委員、藤口光紀委員、北吉孝行委員、若狭利康委員(下村委員代理)、辻孝和委員、福村剛委員、佐藤仁司委員、野坂文雄委員、森崎和幸委員、森崎浩司委員、高橋博委員、向井助三委員、山田豊子委員
(欠席) 田中優菜委員

(2) 事務局

広島市 中村都市整備局長、池田スタジアム建設担当部長、北山スタジアム建設担当課長

4 次第

- (1) 開会
- (2) 主催者あいさつ
- (3) 各委員の意見紹介
- (4) サッカースタジアム建設への意見
- (5) 閉会

5 公開・非公開の別

公開

6 資料

- (1) 「サッカースタジアムについて意見を聴く会」各委員の意見【資料】
- (2) 新しいサッカースタジアム・公園に関するアンケート集計結果【参考資料】

7 議事要旨(次第4)

(1) 桂田委員

- ・ 1回目の会議でも申し上げたが、サッカースタジアムは、プロスポーツチームであるJクラブの本拠として、また、広島市の中心市街地に賑わいや回遊性をもたらす施設であってほしいとも考えているので、そうした点に配慮した事業スキームとしたほうが良いのではないかと考えていることを改めてお伝えする。これは、全国の他エリアのスタジアムの委員会に出席させていただき、議論してきたことも踏まえての私見である。
- ・ 今後、これまで出た多様な意見を基本計画としてまとめ、来年度には着工に向けた事業者選定に入っていくのだと思うが、広島においては今後も深い意見が出てくると思っているので、スタジアムを1回の建設工事だけで完成とせず、竣工後も中長期的、段階的にいろいろな要素を取り入れ、拡張することができるよう、建設後においても柔軟に投資ができるようなスキームも御検討いただけたらと思う。

- 11月20日に広島市主催の中央公園に関する有識者会議が開催されたことをニュースで知り、広島市に確認したところ、「サッカースタジアムについて意見を聴く会」とは別に並行して、今年の8月から「中央公園の今後の活用に係る有識者会議」が設置されているとのことだった。中央公園とサッカースタジアムは別のポジションではあるが、中央公園の会議でも「スタジアムを核に回遊性を」、「スタジアムにはこんな機能が良い」といった意見が出ているようである。今後意見をまとめていくに当たって、それぞれで出された意見についてどのようにバランスを取り、それぞれの会議の意見を尊重するのか、あるいは中央公園の会議と意見を聴く会は違う位置づけなのか、この点について御説明いただきたいと思う。

(中村都市整備局長)

- 御指摘のとおり中央公園全体に関しては別の会議において、サッカースタジアムの建設予定地である中央公園広場や旧市民球場跡地なども含めた中央公園全体のあり方についての議論をしているところである。ただ、中央公園の会議は、意見を聴く会において御意見をいただいているようなサッカースタジアムがいかにあるべきかを議論する場ではなく、平和記念都市広島を中心部にある中央公園が周辺とどのような関係を作っていくか、全体としてどういう役割を担っていくのかということ議論している場である。サッカースタジアムのコンテンツや中身については、意見を聴く会において御意見をお聴きしているところであり、こちらで議論している内容についてお互いにフィードバックして進めさせていただいている。エリアが重複する会議が2つあるように見えるのは御指摘のとおりであるため、意見を聴く会の冒頭での説明が不足しており申し訳なかったと思う。意見を聴く会では、サッカースタジアムを中心に議論をする場ではあるが、このエリアに多様な世代の方に集まって使っていただくためにはどのように工夫していけばよいか、あるいは周辺との関わりをどうしていけばよいかについても議論いただければ幸いである。いずれの会議についても当部局が所管しているのでしっかりと整理していきたいと思う。

(2) 原田委員

- サッカー場の機能・仕様について、ラグビーなどのマルチスポーツができるようにという意見を出したが、その後いろいろと情報を集めたところ、ラグビーをやるとハイブリッド芝であっても損傷が激しくなり、メンテナンスコストがかさむなどなかなか難しいことから、資料に掲載している機能・仕様に関する2つの意見は削除していただきたい。やはり、サッカースタジアムはサッカーに特化した方が広島らしさが出るのではないかと考えた次第である。
- 現在、公園緑地行政の考え方が従来の整備・管理から、経営・マネジメントに大きく舵を切っており、そのメリットを最大化することが必要だと思う。建蔽率についてもこれまで2%までしか許容されなかったものが12%まで緩和されており、公園運営について柔軟性が出てきているので、ぜひスタジアムと一体化した公園運営をしていただきたいと思う。そうすることで、委員の皆さんから出ている意見を多く取り込むことができると思う。例えば、「スタジアム・イン・ザ・パーク」といったコンセプトがよいと思う。このエリアは野球やキャッチボール禁止といった無粋な規則は設けず、グローバルスタンダードの美しい公園に仕上げていただきたいと思う。
- 「まち・ひと・しごと創生基本方針」を内閣府が策定し、1,000億円程度の予算がついているが、その中で「スポーツ・健康まちづくり」がフォーカスされているので、こういったコンセプトを入れながら、スタジアムと公園が一体化したまちづくりが必要である。また、国土交通省から「ウォークブル推進都市」の公募が出ているので、そうした21世紀型のスタジアムを核としたダイナミックなまちづくりができれば、都市のブランディングに結びつくのではないかと期待

している。そうすることで、地域全体の地価が上がり、税収が増え、経済効果が生まれ、雇用が創出されるという好循環が生まれる。スタジアム建設がその起爆剤になる可能性は高いと思うので、このような大きな絵の中で検討を進めていただければと思う。

(3) 藤口委員

- ・ 我々は単にスタジアムができればよいと考えているのではない。まちづくりの一環として、地元の住民が心豊かになり、そして多くの人を訪れるような場所がスタジアムを中心として形成されることを望んでおり、サッカーの競技場を造ればよいということではない。昔は競技するための施設に過ぎなかったが今はそうではなく、競技を観に来る人や日常からそこに集う人を対象とするため、やはりまちづくりの一環として考えるべきであり、会議の冒頭にそうした説明をしていただかないといけないと思う。世の中の流れとして、プランは立てるがその前のビジョンがないことが多い。さらに、より大事なのはその先のミッションだと思っている。ぜひもう一度原点に立ち返って進めてほしいと思う。
- ・ サンフレッチェ広島が使用するのであればJリーグ規約に沿う必要があり、また、コンサートをやるのであれば騒音問題について地域住民への配慮が必要である。このように、まちづくりと一体的に考えないといけないことばかりなので、自治体で意思統一していただきたいと思う。
- ・ スタジアムを防災拠点とするのであれば、停電でブラックアウトになることを防ぐために太陽光発電が有効であると思う。また、防災拠点としては必ず水が必要となるので、マツダスタジアムにもある雨水を溜める施設や、あるいはプールを備えることにより、有事の際にはその水を使うこともできる。広島は冬に使えるプールが少ないと聞いているので、そうした機能も備えた施設の整備が必要ではないかと考えている。

(4) 北吉委員

- ・ 本日は、提出した意見の背景について改めて説明させていただく。観光振興の観点については、インバウンドの増加が期待される中で、広島では観光客1人当たりの観光消費額をいかに上げるかということが重要な課題となっている。地方別の観光消費額を見ると、中国地方の観光消費単価は全国的にも低位であり、いわゆる通過型の観光地となっている状況である。例えば、大阪からの観光客が午前中に平和記念公園を訪れ、午後に宮島に行き、そして夕方には大阪に帰るといった観光行動が1つの例として挙げられる。こうした状況を打開するためには、広島だけではなく広域的な周遊観光が可能な観光ルートの開発が不可欠である。広島市内であれば、平和記念公園を訪れた観光客が市内に1日滞在し、宿泊していただける観光プロダクト、ルートの開発も必要だと思う。その実現のためには、スタジアム建設は大きなチャンスであると考えており、都心を回遊できるルートづくりに活かしていく必要があると考えている。
- ・ MICEの振興については、国際会議を始めとするコンベンション、インセンティブ旅行等の開催は大きな経済波及効果を生むと考えている。我々は県内で開催されるコンベンションの誘致や開催支援を行っているが、都市間競争が激化する中で、大規模会議の開催等に対応できるコンベンション施設の充実が重要であると思っている。また、我々の経験から、安価で小規模会議の開催ができる施設の充実も必要であると思っている。さらに、近年はコンベンションの開催地を決定するに当たって、歴史的施設等で懇親会などを行うユニークベニューや、地元の企業の優秀な技術などを視察するテクニカルビジットといった会議以外での付加価値を求めることも多くなっている。こうした点を踏まえて、都心に建設されるサッカースタジアムに、ぜひ多様な会議開催機能を備えていただきたいと思う。
- ・ スタジアムでは試合のない日でも様々なイベントを開催していただきたいと思うが、これには

周辺住民の理解が必要であり、どのような機能をスタジアムに盛り込むかを検討する際にその点を抜きにして考えることは難しいと思うので、同時並行で周辺住民との調整をしていただきながら、具体化する機能を検討していただきたい。

(5) 若狭委員

- ・ 我々中心部の商業者としては、この地域が上手く使われるかどうかは死活問題である。現在、駅周辺が大変活性化しており、それと同様に中心部も活性化しなければ、広島市が掲げる「楕円形の都心づくり」ができないのではないかと思っている。こうした点に関して、「紙屋町・八丁堀エリアマネジメント実践勉強会」で研究しており、ここでは主に紙屋町・八丁堀の東西筋について協議しているが、それと同時に南北筋もエリアマネジメントの一部として、全体的な視点で考えていきたいと思っている。スタジアムに来られた方が紙屋町・八丁堀まで足を運んでいただくことを望んでおり、そのためにはっきりとした動線づくりをしていただきたい。紙屋町から中央公園まで歩かれた方は分かると思うが、広島の間でも非常に分かりにくい。はっきりとした動線を整備した上で、そこをサンフレロードと名前を付けて、その周りが活性化するようにしていただきたい。なお、サンフレロードは先述の勉強会において出た案である。
- ・ エリアマネジメントの観点からは、スタジアムの周りですべてが完結することにはしていただきたい。すべての機能をスタジアムに入れるのではなく、中央公園全体や紙屋町も含めた都心部全体で役割分担をして機能を考えるべきである。
- ・ まちづくりに関する事業を行っているNPO法人セトラという法人を運営しているが、市から委託を受けて西側の森林部分で「もとまち自遊ひろば」というプレーパーク事業を9年間行っている。月に2回、子どもたちが100名程度集まって広場西側で自由に遊んでいる。西側の木陰は本当に良い場所なので、無くしてほしくないと思っている。できれば、あの場所から河岸に対してなだらかに連続するように整備して、子どもやアベック、家族連れなどが楽しめる場所にしていただきたい。
- ・ スタジアムのピッチはハイブリッド芝を整備してはどうかという話があったが、ハイブリッド芝又は天然芝という芝の形状によって、できること、できないことがそれぞれあると思うので、そうした問題についても整理していただかないと今後の議論ができないと思う。

(6) 辻委員

- ・ 11月末に欧州のスタジアムを視察されたと聞いているが、そうした事例の良いところ取りをしていただきたいと思う。例えば、オランダのフィリップス・スタディオンでは、照明にLEDを使用することでピッチや観客席の見え方が良く、さらにコンサートなどいろんな形で活用されていると聞いている。また、ロンドンのスタンフォード・ブリッジでは、ホテルやレストランが非常に充実しており、スタジアムツアーを実施している。1時間当たり3,000円、食事付は4,500円という設定でツアーをしており、このような取組を365日実施できれば、運営面での一助となると思う。
- ・ 広島市は平成26年に景観計画を策定し、その中で広島城・中央公園地区は「都市機能と公園の持つ緑のオアシス機能の調和」という方針を示していることから、「広島城が見えるスタジアム、広島城から見えるスタジアム」としてほしい。スタジアムを遠くから見た時にどう見えるのかということ意識しながら検討していただきたい。平和記念公園には世界各国から多くの方が来られるが、平和記念資料館から真北を見ると、平和の灯があり、中央公園まで真っ直ぐ見え、やがてスタジアムが見えることになると思う。広島を訪れた方が遠くからスタジアムを見た時に、ぜひ行きたいと思うような設計としていただきたいと思う。

(7) 福村委員

- ・ スタジアムの建設場所は、メモリアルな場所であり、広島城も近接し、さらに中四国地方の最たる商業地域でもある。このような場所にスタジアムができることで多くの方が訪れることが期待されるが、まずは身近にいる広島市民が誇りに感じられる場所にすることが重要だと考えている。また、周辺の賑わいづくりに関わっている立場としては、スタジアムへの回遊ルートが重要だと考えており、回遊性を向上することで来訪された方が再度訪れたいと思う場所となることに繋がっていくと思う。
- ・ スタジアムの多機能化については様々な意見が出ており、旧市民球場跡地のあり方や広島城の活性化の検討なども並行して行われているが、それぞれの役割分担などを含め内容を精査していただきたい。もともと賑わっている地域だが、サッカースタジアムの整備によりさらに賑わいが生まれ、それに応じて街もまた変化していくと思う。我々としては街を変えていくことにもエネルギーを注いでいきたいと考えているので、周辺部も意識しながら方向性をまとめていただきたい。

(8) 佐藤委員

- ・ 多機能化の項目において、コンサート利用についてネガティブな意見を出した。その理由はいくつかあるが、まず、現在のエディオンスタジアムにおけるコンサート開催は、2002年から2017年までの16年間で8公演のみである。グリーンアリーナでは年間平均40日程度のコンサートの稼働がある。このため、広島においては1万人規模のコンサートが最適であるとコンテンツホルダーから思われている実態がある。また、ハード面の課題として、一番大きいのは防音壁である。天然芝を傷めないステージの造り方も大事であるし、最近のコンサートの設備は上から吊る仕様になっているためどう対応するかという課題もある。こうした設備面に投資することは大いに結構だが、その投資に対してどれほどコンサートを誘致できるかという点、正直なところ広島では期待できない現状がある。イニシャルコストの制限や騒音対策の限界もあると思うので、こうした意見を出した。ただ、スタジアムでサッカーだけやればよいという考えではない。重量級のラグビーを毎週やるのは厳しいが、ラグビーに興味を持った子どもがスタジアムを利用することはウェルカムである。
- ・ 毎年8月に平和記念式典をニュースで見ているが、膨大なテントやイス、救護施設、仮設トイレなどを設営されて開催されており、それ自体は必要だと思うが、大型映像装置を利用して、トイレや救護施設、ラウンジなどもあるスタジアムをサテライト会場として活用することも考えられるのではないかと思う。
- ・ スタジアムは天然芝だからこその豊かさや価値があるが、その圃場、ナーサリーを近くに確保しておいていただいたほうが良いと考えている。
- ・ 昨年ロシアでワールドカップが開催されたが、12会場のうち11会場はバイエリアやリバーサイドだった。こうした場所が会場になった理由としては、皆さんに景観を楽しんでいただくということと併せてバイエリアを開発されたと思っている。広島においても、スタジアムのエリアと併せて旧太田川沿いのエリアも開発されるとよいと考えている。
- ・ 参考にすべきは空港である。地方空港では公共交通機関でスムーズにアクセスでき、地元のグルメやお土産、ラウンジが楽しめる。また、バリアフリーであり、高齢者や海外の方も迷わず搭乗ゲートまで辿りつくことができる。車での往復を前提とする施設は経済効果を生まず、車を持たないアウェイの観客にも歓迎されず、地元にも良さをもたらさないと考えている。スタジアムから半径5km程度の範囲に住んでいる方々に楽しんでいただける施設であることが肝要だと考え

ている。

(9) 野坂委員

- ・ スポーツ協会としては、子どもたちが遊んだり、スポーツをしたりする場所が非常に少ないという現状があるので、そうした面での充実をお願いしたい。また、ジュニア選手の育成のための場所の確保や障害者スポーツの普及の観点からも体育施設を充実させてほしい。
- ・ 我々は市の施設を指定管理で運営しているが、近年災害があった際にスポーツセンターが避難場所となるケースが多くなっている。学校の体育館は空調などがいないため、比較するとスポーツセンターの方が良い設備が整っており、防災施設としてはこうした機能が必要だと思うので、中央公園広場を含めスタジアムにこうした機能を充実させてほしい。
- ・ 都市公園法の緩和の話があったが、地域や社会貢献のために、このエリアで皆さんのためになるような仕事がしたいという企業がある中で、法律に縛られてばかりでは企業が出にくいと思う。社会貢献をしたいという企業はたくさんあると思うので、そのためにも緩和に向けて取り組み、広島で初めて実現できることがあってもよいのではないかと期待している。

(10) 森崎（和）委員

- ・ 前回の会議でも意見を述べたが、選手を含めた競技に関わる環境整備、観戦スタンドとピッチとの距離に関しては、その重要性を今一度お伝えしたい。
- ・ 来場者のストレスの大きな要因となるトイレ環境について、台数の充実は当然のことながら、ユニバーサルな環境であることや、特に女性用のトイレの充実が必要だと感じている。最近の商業施設にあるようなパウダールームを用意することで、トイレの渋滞緩和につなげつつ満足度も向上することができる。
- ・ 試合日以外にも日常的に人が集うことができるカフェやパブ等のスペースの整備が必要だと思う。学生から意見を聴く機会があったが、単にカフェ等を設ければ良いということではなく、重要なのは気持ちよく過ごせる環境が整っていることが重要とのことだった。そのためには、装飾などの雰囲気づくりや、コンセント、シートバリエーションなどの充実といった利用者側の視点を持つことが必要だと思う。
- ・ また、コミュニケーション不足の解消にも寄与する参加型施設の整備が必要であると思う。個人的にはフットサルコートを挙げさせていただく。中央公園広場周辺には庁舎や企業も多く、趣味でフットサルをしている方も多くと聞いているため、仕事帰りに身体が動かせる環境があれば、新たなコミュニケーションづくりの場としても期待できる。また、スタジアムに隣接するフットサルコートは子どもたちに多くの夢を与えることができ、スポーツを通じた人間形成の場としても期待できると思っている。
- ・ サッカースタジアムにより地域とクラブのつながりをより強いものとしたいと思っており、私たちもそのために地域に貢献できるよう日々努力していきたい。

(11) 森崎（浩）委員

- ・ 競技に関わる環境整備、観戦スタンドとピッチとの距離に関しては、和幸委員と同様に、その重要性を改めてお伝えしたい。
- ・ 試合開始前やハーフタイム、試合後などにたくさんの方々が集えるスペースの整備が必要である。海外のスタジアムではラウンジと呼ばれており、ラウンジと言うと少し敷居が高く、ビジネス色が強いイメージを持つと思うが、ヨーロッパのスタジアムを視察した際、試合前後に仲間や家族、ビジネスパートナーなどと飲食をしながらコミュニケーションをしている姿はとても印象

深く、コミュニティ形成の場として大きく寄与する。また、試合日以外では、企業や自治体、団体などへ広く貸し出しており、スタジアムという普段とは違った雰囲気では会議やパーティー等が行えるため好評であり、稼働率も高いと聞いた。

- スタジアムはバリアフリーかつユニバーサルであることが重要である。なかなかスタジアムに足を運ぶことが難しい高齢者や障害者の方なども楽しむことができ、笑顔になっていただける環境が必要だと思っている。また、発達障害を持つ子どもたちにもスタジアムに足を運んでもらえるよう配慮された、海外ではセンサリールームと呼ばれている観戦スペースの重要性を感じている。発達障害の方は、非日常的で慣れない場所が苦手であったり、人混みや大きな音が苦手である。このような方への対応について日本は発展途上であるが、海外では安心して観戦できる動線づくり、観戦ルームが整備され始めているとのことである。
- 広島サッカースタジアムは、公園と一体となって整備され、誰もが集える場所になってほしいと思っており、平和都市広島にふさわしい笑顔にあふれる空間となることを願っている。

(12) 高橋委員

- 前回の会議でも申し上げたが、スタジアムは「楽しく、役に立つ」と感じられる施設とすることが必要である。スタジアムに多くの人を集めるために、スタジアムに行くのが楽しいということ意識してこれからの検討に取り組んでほしい。楽しいから何度も足を運んでもらうことで、経営も成り立つと思う。また、競技以外の時にも様々な面で人の役に立つ施設とすべきであり、そうした視点で色んな機能を入れていく必要があると思う。
- 国際平和都市として世界に知られている広島にスタジアムを造るのであれば、スケールでは劣るかもしれないが、その他の部分で世界で参考にされるようなスタジアムとしてほしい。都心部建設のため、国際試合も多く開催されることが想定される。海外から訪れた人が「広島スタジアムは素晴らしかった、様々な面で参考になる」というものとしてほしい。
- 少子高齢化が進む日本だからこそ、福祉の面でも細かい配慮が行き届いたスタジアムとしてほしい。スタジアムの高いところに上る際、高齢者や障害者は階段を上るのがなかなか難しいので、エレベータを整備するなど配慮したスタジアムにしていただきたい。そうした面での投資は出し惜しむべきではないと思う。また、サッカーが観たくても経済的な理由等で観られない子どもたちなどを試合に招待することにより、そうした人もスタジアムに行きサンフレッチェ広島を応援できるような取組をしていただきたい。
- 広島市は全市的に河岸の整備が進んでおり、基町環境護岸も整備はされているが、あまり利用されていない。せっかくスタジアムを造るのであれば、すぐ傍の河岸も一緒に楽しめる親水公園となるよう一体的に考えてほしい。

(13) 向井委員

- ラグビーができるようにという意見があったが、サッカーのピッチより 10m 程度長くなるので難しいのではないかと考えている。
- スタジアムをサンフレッチェカラーにしてはどうかと思うが、原爆ドームなど周辺との調和に配慮する必要があると考えている。
- 広島市は大型駐車場があまりない。広島城の近くに 60 台分程度あるがそこは今後商業施設が整備され、代わりにバレーボール場が駐車場になると聞いている。来年、広島で障害者の全国大会が行われる予定であり、その際の駐車場として中央公園広場を借りることとなっているが、スタジアムができるとこのような機会に駐車場として利用できるスペースが無くなるため、駐車場も整備していただきたいと思う。

- ・ 水害対策として、豪雨が降ると広島市の住居は2階まで浸水すると聞いているので、スタンドや広場の下に雨水溜池を整備してはどうかと思う。

(14) 山田委員

- ・ スタジアムからは離れるが、バレーボール場は築69年、青少年センターも築53年が経過しており、市の行政としてこれらの建替えなども併せて考えていただきたい。
- ・ スタジアムへの動線をどうするかが重要な点だと思っている。フードフェスティバルのような一時的に人が集中するイベントに参加したことがあるが、中央公園広場までの道が非常に分かりにくいので、ペDESTリアンデッキを整備していただきたい。
- ・ 基町環境護岸について、子どもたちが水と親しんで遊べるような優しい環境を整備してほしい。
- ・ スタジアムは高齢者や女性に配慮した施設としてほしい。

(15) 藤口委員

- ・ スタジアムへの動線が最も重要な点だと思っている。城南通りは交通量が多いが、歩行者を地下道に通すのは難しいので、ペDESTリアンデッキを整備して道路の上を通すのがよいと思う。そうでなければ、歩行者が危険にさらされることになり、スタジアムに行きたくないと思われるので、安全第一で動線を検討してほしい。

(16) 高橋委員

- ・ 意見が出ていたサンフレロードは良いと思う。いずれにしても紙屋町方面から中央公園広場への動線を整備しないと、現状の道は暗く、狭く、分かりにくい。大勢の人を動員するためには、明るく安全で、歩くのが楽しいサンフレロードとしてほしい。

(17) 原田委員

- ・ サンフレッチェコインの実証実験が始まっており、地域通貨を目指すための準備段階だと思うが、ポイント付与しかなかくキャッシュに還元できない。ユベントスで地域通貨を流通させている事例もあるが、これについて行政としてバックアップしてキャッシュ化できるような地域通貨に発展させていくような考えはあるのか。

(池田スタジアム建設担当部長)

- ・ サンフレッチェコインについて市からお答えすることはできないが、近年はキャッシュレス化の流れがあるため、スタジアムの整備に当たっては、中での買物や入退場時の面などでキャッシュレスなどの新しい技術を導入するべきであると考えている。
- ・ 白浜空港では顔認証の実証実験が始まっており、顔認証でキャッシュ管理を行うことなどが導入されている。スタジアムができる頃には高密度Wi-Fiなどは当たり前であり、5Gの世界で様々なことが展開できるスタジアムとしてほしい。グローバルスタンダードで「広島はすごい」と思われることができる最大のチャンスだと思う。公共施設は一度造ると50年は変わらないため、半世紀に一度のプロジェクトであるという意識で取り組んでいただきたい。
- ・ すべてを行政が税金を投入して整備する必要はない。民間の活力を導入することで、計画に具体性が出てくると思う。サンフレッチェ広島も立派な株式会社なので、連携しながら運営していただければと思う。

(18) 若狭委員

- ・ キャッシュレスについて、現在は増税に伴う5%還元もあるので商店街でも非常に多く利用されており、スタジアムにはキャッシュレスが使いやすい環境を整えることが必要だと思う。一方で、地域通貨は以前に流行ったが現在続けているところはほとんどない。大きい商業施設は自前でそうしたサービスを造っており、商店街と結びつけることは難しいと思うので、地域通貨はお勧めしない。
- ・ サンプルロードはぜひ実現してほしい。ペDESTリアンデッキをスタジアムの2階から旧市民球場跡地まで繋げて整備してほしい。そうしなければ、白島方面に人が流れて経済効果が無くなってしまう。

(19) 福村委員

- ・ 動線については、専門家の方にも話を聞きながら複数のルートから選択できるようなルート設定を考えてほしい。動線がループして複数のルートが存在するということが重要だと考えている。

(20) 若狭委員

- ・ できればループバスを設定してほしい。試合時にはシャトルバスが出ると思うが、単に駅とつなぐシャトルバスではなく、紙屋町・八丁堀を通り、流川にも飲みに行けるようなループバスとしてほしい。